

	A.D. 1,000 ~ 1,500 年	A.D. 1,500 ~ 1,800 年
欧 米	<ul style="list-style-type: none"> <li>•<b>十字軍の遠征(1095~1291)</b> 地中海世界の文化交流を促した。東西のハーブや薬草、アラビアの医学や精油蒸留法などがヨーロッパに伝えられた。</li> <li>•<b>ハンガリー王妃の水(14世紀)</b> ハンガリアンウォーターとも呼ぶ。エリザベート1世が手足の痛む病気にかかり、修道僧がローズマリーなどを使用した痛み止め薬を献上したところ良くなり、隣国の王子が求婚したというエピソードがある。「若返りの水」として評判が立つ。</li> <li>•<b>大航海時代(1380~1600)</b> スペインやポルトガルなどの国々が新しい領土の発見と香辛料の直接取引を目的に、航路を探し求めた。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>•<b>ジョン・ジェラード(1545~1612)</b> イギリスのハーバリスト。ロンドンのホルボーンに薬草園を開く。「本草または一般の植物誌」を著す。</li> <li>•<b>ジョン・パーキンソン(1567~1650)</b> イギリスのハーバリスト。チャールズ1世に仕え、「広範囲の本草学書」を著す。</li> <li>•<b>ニコラス・カルペパー(1616~1654)</b> イギリスのハーバリスト。新大陸への移住者が好んで携帯した「the English Physician」を著す。自らの健康は自らが守ることを主張。薬草やハーブの知識だけでなく、占星術なども取り入れていた。</li> <li>•<b>ヨーロッパの香料産業はじまる(16~17世紀)</b> イタリアやフランスのプロバンス地方で柑橘系の植物から香料が作られはじめた。特にフランス南部プロバンス地方のグラースは香水の町として知られ、現在も香水生産では世界一。 ルイ14世時代の産業の育成政策として香水産業がおこなわれた。当時の香水は液体ではなく、香りつきの皮手袋として貴族の間で流行した。(※合成の香料が使われはじめたのは19世紀の終わり頃から。)</li> <li>•<b>ケルンの水(17世紀)</b> イタリア人理髪師のフェミニスが、ドイツの町ケルンで「オーアドミラブル=すばらしい水」を販売。通称「ケルンの水」。世界最古の香水であり、1742年に「オーデコロン」として商標登録する。胃薬としての役割もあった。</li> </ul>
南 アジア		
(中 国・日 本)		